

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	小田原こども舞台芸術クラブ		
所在地	神奈川県小田原市	設立年	2021年
運営主体	小田原こども舞台芸術クラブ		
事業目標	地方においては、伝統文化の継承、普及を担ってきた人材が高齢化に伴い、積極的な活動が十分に出来ないようになって来た。これに伴い、子供達も直接文化に触れ、身近に感じる機会が減少している。本事業を通し、子供達に継続的に伝統文化に触れる機会を提供し、伝統文化の魅力や価値をアピールする事で、地方において文化の継承がなされ、文化に対する意識の変化がなされる事を期待している。また、子供の育成に地域の人に関わる事の大切さを訴えたい。		
きっかけ	予てより小田原市にて子供へ能楽の指導を行ってきた長谷川晴彦が、地域において子供達が伝統文化に触れる機会が減少してきたことに伴い、地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業を受け、子供達が伝統文化に触れる機会を安定的に提供できる場を設けたいと「小田原こども舞台芸術クラブ」を創設した。		
団体・組織等の連携	NPO法人子どもと生活文化協会(子供支援活動へのアドバイスなど) はじめ塾(子供への対応などへのサポート) 公益財団法人 梅若研能会(指導者について提携)		
活動場所	小田原生涯学習センターけやき、BLEND・POST等		
活動概要	平日を中心に月2, 3回3時間程度の稽古を行う。 年1回の能楽堂での発表会や、小田原での公開稽古などを行うことで、子供達の活動の成果を披露する。 発表会ではプロとの共演を通し、伝統芸能の深さや本質を体験出来る機会とする。		

○本事業による成果

昨年度の公開稽古、おさらい会ではコロナの影響で学校教員の来場者が無かったが、本年の公開稽古に於いては3名の中学校教諭、2名の小学校教諭が出席し本事業のアピールをすることが出来た。これにより、今後の学校への参加者募集などの地域部活動へ展開への足がかりが作れたと考えている。

昨年度での市の教育委員会との面会では、文化部活動の地域委譲についての認識は全く無かったが、本年度の市議会において部活動の地域委譲への質疑が出た事に於いても、本活動への関心が高まってきていると感じている。

伝統芸能の後継者不足に伴う、存続の危機感は多くの人を感じている。しかし、このような形で文化部の部活動を行政が支えるという姿勢を示して頂けることで、伝統文化に関わる多くの人々が希望ち、文化に触れ支えることを前向きに考える事が出来るということが分った。

○児童・生徒への指導に関する工夫

本年度は謡、舞以外に能楽太鼓の稽古を実施することが出来た。太鼓に触れることで、謡や舞について更に深みを知らうとする姿勢を導くことが出来た。

本年から未就学児が稽古に参加するようになった。能楽では子方といって子供が出演する役があるため、子供に対しての指導法や子供ならではの演技方が確立されているため、参加者の年齢に合わせた指導を行った。

中・高生は年少者への指導を通して自分が指導を受けた内容に対して振り返る事が出来、更に決まり事など自分がきちんとやらねばならないという責任感が生じるようになった。

後期は発表会の前に公開稽古を行った。それにより、人に見られるという事に対して、子供達がそれぞれに考えるようになり、公開稽古から発表会までの十数日の間に大きな進歩を見ることが出来た。何かをやらさせられる所から、自分が何かをやるという意思の変化を招いたのが大きな要因と考えている。身近に無い芸能であるからこそ、取り組む姿勢を含め、そのような発見が大切なのだと考えている。

○運営上の工夫

本年から参加者との連絡に「公式LINE」を用いるようになった。それにより、稽古日の変更や欠席の連絡などが容易に出来るようになり、便宜性を感じている。また、保護者にもLINEに参加して頂くことで、活動の状況など共有できるようになった事は大きい。

昨年度から引き続き、サポーター制度を設け、メールによる着付けの手伝いなど、父兄を含め活動を支えてくれる人たちとのコミュニケーションを保つ努力をした。

稽古、発表会で使用する扇は、演目により使用するものが変わり、高価なものも使用されるという事で、長谷川晴彦が所有するものを賃借した。前期で使用した太鼓は、はじめ塾所有の物を借用し、稽古場までの運搬は指導者が家用車でいった。

公開稽古、発表会で使用した着物、袴も、はじめ塾所有のものを借用した。洗いや修繕は塾が行ってくれたが、使用前の準備(襟の取り付けなど)には、時間や人出が必要であったので、サポーターの協力が重要となった。

ただ、本年度は正式に保護者やサポーターとの打合せの場を設けなかった為に、具体的なお願いをするタイミングが遅れ、サポート参加出来ない人が出たのは残念であった。

より保護者、サポーターとの連携を強める必要を感じる。

○継続的な運営に関する課題・展望

本年は参加費は徴収しなかったが、今後はその必要性を感じているし、保護者からもある程度了承を得ることが出来た。やはり、活動を通してやる事への認知度が高まった事が大きいと思う。ただし、徴収額は月1000円程度に収め、参加の間口を広く保つ為に、他に活動費を獲得する方法を求めていきたい。

活動場所は生涯学習センターを使用しているが、他の活動団体から子供の声がうるさいといったクレームも出ている様ではある。学校施設が使用出来れば良いのだが、逆に地域の大人の団体が優先的に使用する権利を持っており、そこに参入する事が難しい場合がある。新規参入団体として、既存の団体などと共存できる形を考える事が求められている。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

現状能楽の部活動のある学校はほとんどない為、まずは子供が部活動のように参加できる環境を作り、それに各校から生徒が参加して貰えるようにする事が必要となります。

設立2年目の団体なので、地域の人に活動を知って貰う段階なのですが、本年の公開稽古に教員が観覧に来てくれた事、市のアウトリーチ事業に能を取り上げて貰った事など、段々と地域の文化団体や教育関係者との繋がりが出来ているように感じています。今後、校外での部活動が学校の部活動のように活動評価がされるようになれば、参加者も増えていくのではないかと考えている。

また、参加生徒と向き合うと同様に、保護者や学校とのコミュニケーションを密にする体制を作る必要があり、当会としては教育関係に詳しいはじめ塾やCLCAとの連携をしっかりと行って行きたいと考えている。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	24人
	学校名	城山中学校、白山中学校、相洋高校、片浦小学校、芦子小学校等
	募集方法	昨年度参加者への告知、市の文化施設でのチラシの掲示、配布。 協力団体へのチラシ送付、配布依頼。
指導者	人数等	3人
	募集方法	当団体の代表である長谷川晴彦が所属する梅若研能会など、能楽師としての繋がりから依頼。
参加者の移動手段		電車、徒歩、自転車
活動費用	指導者謝金等	指導謝金1,050円/時間、外部指導者謝金5,100円/時間、発表会での演奏謝礼(東京囃子科協議会規定に拠る)、市外への交通費・実費
	その他	装束借損料 1人分2,500円/使用回数、太鼓借損料6,000円/使用回数、舞扇借損料1本300円/使用回数、稽古会場費
活動財源	会費	なし
	その他	
スケジュール	基本活動	月3回(主に水曜日)18:00~21:00
	年間	前期稽古 4月~7月(令和四年度は太鼓と謡の稽古) 7月におさらい会を開催 後期稽古 9月~2月(令和四年度は袴能、仕舞、謡の稽古) 2月に能舞台での発表会を開催
保険加入等		なし

【活動の様子（写真添付）】

○前期おさらい会風景



○公開稽古風景



○発表会風景



